

2022年 市長新年あいさつ

“多様なつながりで希望に満ちた 「ビヨンド・コロナ社会」の構築を”



舞鶴市長
多々見 良三

新年おめでとうございます。

皆さまにおかれましては、健やかな初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、全国で新型コロナウイルスの感染が拡大し、本市においても7月中旬以降、急速に感染者が増加しました。全国的な感染拡大も相まって、長く続くコロナ禍が皆さまの生活に多大な影響を与え、先の見えないトンネルにいるような日々が続くこととなりました。

このような中、市民の皆さまには、感染対策を徹底いただくとともに「舞鶴方式」によるワクチン接種にご理解、ご協力いただく中で、対象人口の約9割の方が接種を希望され、早期に2回の接種を終了できたことにより、感染状況は落ち着きを見せました。改めまして感謝申し上げます。

コロナ禍は多くの困難をもたらしましたが、一方で本市が有する人と人とのつながり、コミュニティの力を改めて認識する機会にもなりました。

昨年開催された東京2020オリンピック・パラリンピックでは、ウズベキスタン共和国のホストタウンとして、柔道選手団をお迎えし、舞鶴市民の歓迎の気持ちをぜひともお伝えしたいとの思いから、感染症対策を万全に行い、歓迎セレモニーを実施しました。

セレモニーでは、市内小学生が作成した千羽鶴の贈呈、東・西舞鶴高校書道部による選手団を応援する書道作品の展示、記念品の交換、多くの市民の皆さまに出演いただいた応援動画や小・中高生の合同合唱団によるウズベキスタン共和国国歌斉唱動画の放映、日星高校チアリーディング部によるパフォーマンスなどを披露したところ、選手団の皆さまは大変感動され、感謝の言葉をいただきました。大会では、選手団の一人が銅メダルを獲得し、ホストタウン交流に花を添えていただく結果となりました。

また、昨年は、1901年の海軍舞鶴鎮守府開庁から120年目を迎えた年でした。歴史を学べるまち探検

マップアプリの制作や海軍に由来する食文化の発信などを通じ、地域が有する豊かな歴史、文化に触れる、地域の皆さまが地元を深く知る「地域学」を進めていく新たな一步を踏み出す節目の年ともなりました。

新型コロナウイルス感染症により、国全体で、大都市と連携、共生する地方分散型の社会を早期に構築することが重要であるとの認識が広がっています。

その実現には、豊かな自然、脈々と受け継がれてきた歴史・文化の中で、「お互いさま」の精神が根付いた地域コミュニティがしっかりと残り、大都市と適切な距離を保ちながらつながることができる交通ネットワーク、高等教育機関や民間企業などとの「多様な連携」で「経済」「社会」「環境」の好循環を生み出している本市が果たす役割は大きなものがあります。

困難を乗り越えた先には新たな視界が広がっています。市におきましては、国が進める新型コロナウイルス感染防止対策・経済対策を踏まえ、市民の皆さまの安全を守る最前線にいる立場として、皆さまのご意見をお聞きしながら、地方分散型社会を実現する「ITを活用した心が通う便利で心豊かな田舎暮らし」を推し進めてまいりますので、引き続きご理解ご支援賜りますようお願い申し上げます。

年頭にあたり、市民の皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げまして、新年のごあいさつといたします。

